

校長及び教員としての資質の向上に関する指標

教員等育成指標(教諭)

キャリア・ライフステージ 年齢 (目安) 教職経験年数 (目安)	採用時 (~22歳)	基礎力の形成期 (23歳~27歳) 1~5年	実践力の向上期 (28歳~32歳) 6~10年	実践力の充実期 (33歳~37歳) 11~15年	実践力の発展期 (38歳~47歳) 16~25年	総合力の発揮期 (48歳~) 26年~
	学級担任、副担任等			主任職(学年、校務分掌)		
目指す教員像	学習指導、児童生徒理解、生徒指導、学級経営など、教育活動に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。	初任校における学校勤務の経験を通じて、教育活動に関する基礎的な職務遂行能力を身に付けている。	複数の学校勤務の経験を通じて、教諭としての基盤を確立し、自らの実践を常に振り返りながら、職務遂行能力を向上させている。	学校運営の中堅として、学校全体を見渡す視野を持ち、若手教員の模範となりながら職務遂行能力を高めている。	中堅としての役割と責任を自覚し、同僚教員の資質向上を支援しながら、校内外に広げ目を向け、関係者と連携して学校運営を牽引している。	教諭としてのこれまでの実践を基に、総合力を発揮しながら円滑な学校運営に貢献している。
岩手の基本研修 (キャリア・ライフステージに応じた基本研修)		初任者研修 2年目研修 3年目研修	教職経験者 5年研修 (6年目)	中堅教諭等資質向上 研修 授業力向上 研修(30代)	授業力向上 研修(40代)	授業力向上 研修(50代)
1 教員としての素養	使命感、責任感、倫理観 教育的愛情 豊かな人間性 コミュニケーション力 自ら学び続ける意欲・探究心 課題に立ち向かう力	<ul style="list-style-type: none"> ・教員としての使命感や責任を自覚し、教育への情熱と誇りや高い倫理観を持っている。 ・児童生徒に対する愛情を持ち、一人一人の児童生徒と真剣に向き合っている。 ・豊かな人間性を持ち、社会人としての常識や幅広い教養を身に付けている。 ・様々な背景・価値観を持つ人々との対話を通して情報共有し、相互に考えを伝え深め合いながら、合意形成を図り、課題を解決している。 ・自律的に学び探求する姿勢を持ち、教育の情報化を含む時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を生涯にわたって高めている。 ・心身共に健康で様々な状況でも感情をコントロールしながら、忍耐力とチャレンジ精神を持って様々な課題に取り組んでいる。 				
2 学習指導力	教育課程の編成・実施 教科教育等の専門性 確かな学力を育む授業	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関する基礎・基本を理解している。 ・学習指導要領と学校教育目標を踏まえた教育課程を実施し、教育活動全体を通して児童生徒の資質・能力を育成している。 ・いわての授業づくり3つの視点に基づいた授業を実践し、児童生徒のつまずきなどに応じて授業を工夫・改善しながら、主体的・対話的で深い学びを実現している。 ・学習指導要領、教育課程に関する基礎・基本を理解している。 ・学校教育目標、教育課程、指導計画の内容を理解して教育活動を展開している。 ・学校教育目標と教育課程及び指導計画の関係を理解して教育活動を展開している。 ・学校内外の関係者と協働して地域の教育資源を活用しながら教育活動を牽引している。 ・教育課程や指導計画に対する評価・改善の視点を持って教育活動を牽引している。 ・教育課程や指導計画に対する評価に基づき、具体的な改善・充実に貢献している。 ・教科・領域に関する知識・技能を身に付け、教科等の指導に関する基礎・基本を理解している。 ・教科等の目標や教科の特質に応じた見方・考え方を踏まえ、指導の見通しを持って教材研究を実践している。 ・キャリア教育や道徳教育の視点を持って、教科等の目標や見方・考え方を捉え、教材研究や教材開発を実践している。 ・教科横断的な視点や小・中・高の接続の視点を持って、教科等の目標や見方・考え方を捉え、教材研究や教材開発を実践している。 ・自らの教科等の専門性を高めるとともに、学校の教科等の指導力の向上を牽引している。 ・教科等の今日的な動向を把握し、同僚教員に助言するなど、学校の教科等の指導力の向上に貢献している。 ・指導方法、指導技術、評価方法など、授業に関する基礎・基本を理解している。 ・いわての授業づくり3つの視点を踏まえた授業を展開するとともに、授業の評価に基づき授業の工夫・改善をしている。 ・児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら授業を展開するとともに、授業評価に基づき授業の工夫・改善を示している。 ・児童生徒一人一人の学習状況に応じて授業を柔軟に展開し、若手教員には指導と評価の一体化の模範を示している。 ・同僚教員の授業力向上を支援しながら、組織としての授業の工夫・改善と指導と評価の一体化に貢献している。 				
3 生徒指導力	児童生徒の集団指導 いじめ等の問題行動・不登校等への対応 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の重要性と、自己指導能力の育成を目指すという積極的な意義を理解している。 ・常にカウンセリングマインドを持ち、日常の児童生徒との人間的な触れ合いや問題行動への毅然とした態度などを通じて信頼関係を築き、児童生徒理解を深めている。 ・一人一人の児童生徒の人格を尊重し、学校生活のあらゆる場や機会を捉え、健全な成長を促し、児童生徒に自ら自己実現を図るための自己指導能力を育成している。 ・学級担任の役割や職務内容を理解し、学級経営など集団指導に必要な知識を身に付けている。 ・学校教育目標を踏まえて、学級・部活動など担当する児童生徒の集団指導の方針を立てながら、個に応じた指導を実践している。 ・学級・学年・部活動など様々な児童生徒の集団指導の方針を同僚と共有しながら、指導スキルを向上させている。 ・養護教諭など様々な立場の同僚と連携して、集団全体の動きと児童生徒個々の状況を把握しながら児童生徒の集団指導を実践している。 ・児童生徒のいじめ等の問題行動・不登校等に関する基礎・基本を理解している。 ・教育活動のあらゆる場面でいじめ等の問題行動・不登校等の兆候を発見する視点を持ち、児童生徒一人一人と向き合っている。 ・経験や研修等を通していじめ等の問題行動・不登校等発生時の対応スキルを身に付け、組織的に児童生徒の成長を支援している。 ・校内での情報共有に努め、若手教員のスキル向上を支援しながら、いじめ等の問題行動・不登校等への学校の対応力向上に取り組んでいる。 ・関係機関との連携や家庭への支援等を図り、いじめ等の問題行動・不登校等の解決のための指導計画策定や実際の指導に率先して取り組んでいる。 ・学校全体の動きに気を配り、同僚の課題解決を支援するなどいじめ等の問題行動・不登校等の解決に向けた環境整備に貢献している。 ・児童生徒の成長や発達、カウンセリングや教育相談に関する基礎・基本を理解している。 ・学校の教育相談体制を理解し、必要に応じて助言を受けながら、随時的・計画的に教育相談の機能を教育活動に生かしている。 ・実践や研修等を通してカウンセリング技法を身に付けるとともに、スクールカウンセラーや養護教諭と積極的な情報共有に努めている。 ・実践を通してカウンセリングマインドを身に付け、教育活動や保護者面談等に教育相談的配慮を生かしている。 ・スクールカウンセラーや養護教諭など同僚と指導方針を共有し、教育相談等に教育相談的配慮を生かしている。 ・スクールカウンセラーや養護教諭など保護者等からの相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを牽引している。 ・保護者等からの相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを牽引している。 ・保護者等からの相談等に対して受容的に対処し、適切に助言するスキルを牽引している。 				
4 マネジメント力	学校組織としての連携・協働 危機管理 関係者等との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が組織として教育活動に取り組むこと及び関係者との連携・協働の重要性について理解している。 ・同僚・関係者と積極的に連携・協働し、それぞれの強みを発揮しながら、学校内外の教育資源(人・もの・資金・情報・時間等)を効果的に活用して、学校経営計画のもと、評価・改善の視点を持って業務を推進している。 ・学校組織や校務分掌等について理解している。 ・校内における自己の役割を理解し、必要に応じて同僚の助言を受けながら業務を推進している。 ・分掌内の動きを見通し、同僚と協働して業務を推進しながら、分掌運営に必要なスキルを向上させている。 ・幅広い分掌の経験に基づいて学校全体の動きを見通し、建設的な提言をしながら業務を推進している。 ・同僚の業務を支援するとともに、学校内外の動きを考慮しながら各種業務を推進している。 ・学校全体の状況を踏まえ、管理職に改善方策などを具申し、調整を図りながら業務を推進している。 ・学校安全、学校保健、食育に関する基本的な知識を持ち、学校事故等に対する危機管理の重要性を認識している。 ・常に児童生徒の安全・保健に配慮し、日頃から同僚との情報の報・連・相に努めている。 ・危機を予測した未然防止や危機を察知した際の迅速な対応を意識して行動している。 ・児童生徒集団に目を配り、危機を察知した際は、率先して迅速な行動をとっている。 ・危機対応に際しては、関係機関と適切に連携をとり主体的に行動している。 ・保護者、地域、関係機関からの要請や苦情に対して、円滑・迅速に対応している。 ・学校が、家庭や地域、関係機関と連携・協働することの重要性を理解している。 ・学級や部活動等で担当する児童生徒の保護者と積極的なコミュニケーションに努めている。 ・保護者や地域など、関係者と良好な関係を築き、教育活動に生かしている。 ・関係者との良好な関係を生かして、積極的に情報収集している。 ・関係者と連携した教育活動の際、積極的に調整役を担っている。 ・関係者との信頼関係を築き、地域の教育資源を教育活動に繋げている。 				
5 復興教育の視点		<ul style="list-style-type: none"> ・「いわての復興教育」が本県の教育の柱の一つであることを理解している。 ・東日本大震災津波の教訓を継承し、本県の地域・未来を担う人材を育成するなど、「いわての復興教育」を推進している。 ・復興教育の理念や3つの教育的価値などを理解し、具体的な教育活動を実践している。 ・学校や地域の実情・課題に応じて、地域や関係機関と積極的に関わりながら教育活動を展開している。 ・地域や関係機関との連絡・調整を行い、学校内外の関係者と協働しながら教育活動を牽引している。 ・指導計画の立案、校内体制の構築など、教育活動全体を通じた復興教育の具体的な推進に貢献している。 				
6 キャリア教育の視点		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の考え方や重要性を理解している。 ・社会や経済の状況に関心を持っている。 ・「いわてのキャリア教育指針」を理解し、児童生徒に総合生活力と人生設計力を育成するなど、教育活動全体を通じてキャリア教育を推進している。 ・本県のキャリア教育の考え方や学校の実情などを理解し、小・中・高や社会との接続を意識しながら教育活動を実践している。 ・家庭、地域、企業、関係機関との関係を積極的に築きながら教育活動を展開している。 ・児童生徒の多様な進路選択に的確に対応するとともに、児童生徒の実態に応じたライフデザイン能力の育成を行っている。 ・家庭、地域、企業、関係機関との連絡・調整を行い、校内外の関係者と協働しながら取組を牽引している。 ・学校のキャリア教育全体計画の立案、校内体制の構築など、社会の変化に応じたキャリア教育の具体的な推進に貢献している。 				
7 特別支援教育の視点		<ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の実現に向けた特別支援教育の理念や指導方法について理解している。 ・「いわて特別支援教育推進プラン」を理解し、障がいに関する知識や配慮等についての理解を深め、個に応じた指導を通じて、「共に学び、共に育つ教育」を推進している。 ・児童生徒一人一人の特性や学習状況の理解に努め、指導内容や指導方法を工夫している。 ・個別の指導計画に基づいた指導を行い、客観的な視点による評価を行いながら指導を改善している。 ・校内支援体制の充実の必要性を理解し、教職員間の共通理解や関係機関との連携・協働を進めている。 ・学校が組織的に行う校内支援体制の整備を牽引している。 ・校内支援体制の充実や教職員の専門性の向上など、児童生徒のニーズに応える教育に貢献している。 				

総合力の発揮期(校長)
校長
教職員の能力を把握して必要な支援を行い、関係者との連携・協働を図りながら、学校を組織体として機能させ、学校教育目標を達成している。
新任校長研修
<ul style="list-style-type: none"> ●教諭として高めてきた素養・資質 ●教育者としての高い見識 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や関係機関の期待を受け止め職務の重要性を自覚している。 ・教職員はじめ児童生徒・保護者・関係者に説明できる教育哲学・理念がある。 ・豊かな経験に基づいた確かな判断力、決断力、リーダーシップを有している。 ・国・県・市町村の教育施策等について情報収集し教職員に周知している。 ●学校経営計画の達成 <ul style="list-style-type: none"> ・自校の現状や児童生徒・保護者・地域・関係者のニーズを把握し経営計画を策定している。 ・学校の経営資源を最適化し、進行管理することで目指す学校像や育てたい児童生徒像の実現に努めている。 ・教育課程のPDCAを実践し、課題解決を図りながら学校教育目標の具現化に努めている。 ●教職員の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が各自の強みを発揮しながら組織的に活躍できる適切な校務分掌を編成している。 ・教職員の日常のサービスを管理し、不祥事の未然防止に努めている。 ・教職員のメンタルヘルスを含めた健康・安全・働き方に配慮し、業務改善を図りながら、風通しのよい職場風土を醸成している。 ●危機管理 <ul style="list-style-type: none"> ・学校事故・いじめ・不登校等の未然防止に努めるとともに、発生時の適切な初動・事後対応に組織的かつ迅速・的確に対応している。 ・学校安全・学校保健・食育等に関する計画を策定し、周知・理解を徹底している。 ●事務管理 <ul style="list-style-type: none"> ・学籍・文書・財務・施設の管理を法令等に基づき適切に行っている。 ●関係者等との連携・協働 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭・地域・関係機関と適切に連携・折衝し、より良い学校経営に努めている。 ・学校教育目標・経営計画等について、保護者や学校評議員等に対して積極的に発信している。 ●教職員の人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特性を見出し、日常的に資質向上やライフプランに関する指導・助言を行っている。 ・OJTや校内研修等を活用し、教職員個々の資質や組織としての対応力を向上させている。
校長としての素養
マネジメント力